

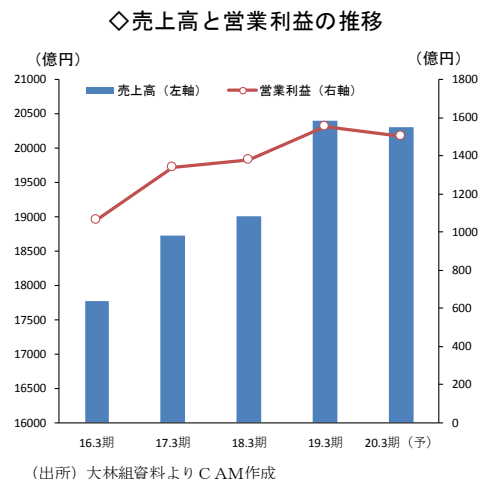
企業ニュース 大林組

(東証1部: 1802) <https://www.obayashi.co.jp/>

作成者: 荒木晶子

中期経営計画の目標を前倒しで達成

関西を地盤とする大手ゼネコンの一角。甲子園球場や大阪城天守閣の再建、1970年の大阪万博ではお祭り広場などの主要施設を手掛けた。2025年の万博開催地が大阪に決定し、インフラ整備や再開発による建設需要増加の恩恵を受けるとの期待が高まる。従来からの「大阪関西万博・IR室」に加え、2019年4月に「夢洲開発推進本部」を新設し、関連工事獲得に向けた情報収集を進めるなど、取り組みを強化している。2017～2021年度の中期経営計画は売上高2兆円程度、営業利益1,500億円程度を目標としているが、2018年度に前倒しで達成した。単年度ではなく、安定的に達成すべき水準として目標を据え置いたが、事業環境に即した計画の見直しが期待される。



売上高は初の2兆円を達成

19.3期の連結業績は、売上高が2兆397億円、前期比7%増、営業利益が1,555億円、同13%増。計画に対して、売上高は697億円、営業利益は165億円上振れた。単体の完成工事総利益率は13.5% (建築12.2%、土木18.1%)、前期比0.1ポイント減となったが、計画の13.3% (建築12.5%、土木16.2%) を上回った。単体の受注高は1兆3,275億円、前期比1%増と、前期並みの高水準を維持した。1株当たりの年間配当金は32円とし、前期の28円から4円増配する予定。

20.3期の通期会社計画は、売上高が2兆300億円、前期比微減、営業利益が1,500億円、同4%減。豊富な手持ち工事をもとに、施工が順調に進捗すると見込まれる。単体の完成工事総利益率は13.1% (建築12.0%、土木17.3%) と前期をやや下回る計画だが、設計変更に伴う追加工事の寄与は織り込まず、保守的な印象である。単体の受注高は1兆3,530億円、同2%増。土木がけん引し、高水準を維持すると見込む。また、中長期での成長に向けて、育成分野である不動産事業や再生可能エネルギー事業を中心に1,000億円の投資を予定している。

[株価動向・投資判断]

再開発案件などを背景に中期での受注環境は良好であるとみられ、中長期での安定成長が期待できよう。

<1802 大林組 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高 百万円 (伸び率)	営業利益 百万円 (伸び率)	経常利益 百万円 (伸び率)	当期利益 百万円 (伸び率)	1株利益 円	1株配当 円
18.3	1,900,655 (1)	137,800 (3)	143,951 (3)	92,662 (▲ 2)	129.1	28.00
19.3	2,039,685 (7)	155,480 (13)	163,054 (13)	113,155 (22)	157.7	32.00
20.3 予	2,030,000 (▲ 1)	150,000 (▲ 4)	156,500 (▲ 4)	110,000 (▲ 3)	153.3	32.00



[主要株価指標]	(売買単位: 100株)
株価 (2019/6/10)	1,073 円
年初来高値 (高値日)	1,149 円 (19/4/2)
同 安値 (安値日)	959 円 (19/1/11)
予想 P E R (20.3 予)	7.0 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,071.5 円
P B R	1.00 倍
予想配当利回り (1株当たり配当金年32.00円)	2.98 %
R O E (19.3)	15.6 %
発行済み株式数	72,151 万株